

2017年度は、13大学から41名の学生が参加しました。

【内訳】（順不同）

●法政大学、東京家政大学、立教大学、千葉大学大学院、明治大学、日本大学、駒澤大学、日本女子大学、目白大学、明星大学、東京農業大学、早稲田大学、関東学院大学

●1年生（1名）、2年生（13人）、3年生（21名）、大学院生（6名）

●大学との協定を結び、正課としてのインターンシップ（4大学）

このインターンシップでは、毎年「修了報告書」を

作成しています。在学中の成果物として、

就活等で活用している学生もいます。

以下、感想を抜粋してご紹介いたします。



## 昨年参加した学生の感想

仕事というのは1人でなんでもこなさないといけない、手を借りるのは難しいなどと思っていましたが、職場の人と助け合ったり、周りのお客さんと対等な関係でお互い協力したりするなど、実際は助け合いながら仕事をしていけるものなのだと感じました。助け合いの精神は、協同組合のインターンシップを通してでなければ得られなかったことだと感じています。（2017年度参加：関東学院大学3年）

人に喜んでもらえることが、こんなにも幸せなことなのかと、あらためて実感しました。そう思えるきっかけは、「客数」「売上」だけではなく、「ありがとう」「ご馳走様」という言葉や表情からも得られることを学びました。普段の生活ではなんとなく見過ごしていたり当たり前だと感じていたことの中に、「嬉しさ」や「幸せ」が潜んでいるのだということに気づきました。

（2017年度参加：日本大学3年）

受入団体から提案された実習プログラム以外に、以前から興味があった「訪問育児」に参加したいと意思を伝えたところ、実際に参加させていただくことができた。

訪問育児では、子どもの相手はもちろんであるが、家事やお母さんの話し相手になることも重要であると知った。私が訪問育児に参加した際、同行していた支援員の方から「あなたが子守をしてくれていたから、お母さんとゆっくり話ができ、たくさん悩んでいることに気がつくことができた」と言っていた。

お母さんの忙しさは想像以上であったが、お母さんとお子さんの笑顔を引き出した時はやりがいを感じた。  
(2017年度参加：立教大学2年)

仕事は上下関係が厳しいイメージがありました。協同組合の仕事を目にして、皆親しく楽しく働いていて、雰囲気がとても良く、働きやすい環境だと分かり、職場環境は大事だと思いました。

(2017年度参加：東京家政大学2年)

このインターンシップを通じて、「働く」ということの認識が大きく変わりました。

今まではただ「生きていくために働く」という認識でしたが、笑顔で働く姿を見て、かっこいいと思いました。もちろん、生きていくために働くということもあるのですが、それ以上に、仕事に対して、「やりがい」を感じているように思いました。そして、私も、やりがいのある仕事を見つけられたらいいなと思いました。  
(2017年度参加：立教大学2年)

「協同組合」は、嘘をつかない仕事ができる場。働く人がそれぞれ、迷わず働くことができる職場。

(2017年度参加：明治大学3年)

